

## シンガポールと日本

大津 隆文

シンガポール在住の次女が日本に帰ってきてきて交わす世間話、そこから日本の特色に気付かされることがある。その二例の紹介。

彼女一家と親しくしている韓国人（IT技術者）が会社を解雇され、G社に就職出来ないかと、彼女の旦那（英国人）が手助けを頼まれた時の話。旦那はG社の友人二人に紹介を頼んだところ、その反応が対照的で面白かった由。

一人（香港人）は「よしきた、丁度会社も人手を求めている、紹介した人の就職が決まると、紹介者にも新規就職者の給料一ヶ月分のご褒美が出る、うまくいったら皆で豪華に食事をしよう」とのこと。もう一人（日本人）は「自分はその人の能力・性格を全く知らない、会社に対して責任が持てないのでお断りする」だったそうだ。

娘は日本人は本当に真面目だと言うが、自分は外国の会社では採用活動が社員の人脈を生かすなど分権的な点が興味深かった。娘の旦那も二度ほど転職しているが、いずれも友人の紹介であった。その代り仕事の内容と報酬が重視され、いわゆる愛社精神は余りなさそうだ。

もう一つはシンガポールも少子化が進んでおり、国のアイデンティティ、いかにシンガポール人中心の国を維持していくかに苦労している様子。外国人の受け入れには慎重で、ビザの発給を受けて働いていてもなかなか永住権がもらえないと娘は嘆いている。

永住権がないと、国民健康保険に入れない、不動産取得時の税金が差別的、懲罰的に高い、義務教育であっても子供を行かせたい学校に行かせられない（近くの学校でもシンガポール人、永住権保持者の子弟が優先され、遠くの学校に回される）という。その点日本はビザを取得して住民登録をすれば、国保に入れる（留学ビザで腎臓透析を受けている本末転倒の事例もあるという）。就学に差別はないし不動産も取得出来る。

日本は外国人の受け入れに制限的、閉鎖的との先入観があったので、娘から「日本はいい国だ、羨ましい」と言われるとなんだかくすぐったい気がする。